

授業科目名	トレーニング科学		
担当者名	廣滋 恵一、井元 淳	実務家教員	
授業コード	1210098001	授業形態	演習
学年	3年	開講期	2025年度前期
単位数	1単位	履修	選択・理学療法士必修
ナンバリング	DP4-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	若年者から高齢者までを対象に運動トレーニングの必要性は広く認識されているが、世代や性別などによる影響を考慮して安全かつ効果的に行うことが重要である。本科目では、急性期病院での臨床や中高齢者への生活習慣予防のための指導の経験を有する教員が運動生理学や栄養学、心理学に基づいたトレーニング科学の知識についてグループワークを交えながら紹介する。また実際にトレーニング方法について理学療法に应用できるよう演習を通して学修する。さらにこれらの内容を踏まえ、実際の運動処方について考察を行う。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1. 各種トレーニングの原理や指導者の役割、正しいトレーニング方法を理解し、説明できるようになる。 2. トレーニングを処方する対象者の体力・フィットネスレベルから、適切なトレーニング計画を立案する手法を修得する。		
授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間	
1	オリエンテーション 体力の概念(井元)	事後:授業内容の復習をする(30分)	
2	運動と栄養とエネルギー代謝(井元)	事前:配布資料の範囲を予習する(15分) 事後:授業内容の復習をする(30分)	
3	運動と心理(井元)	事前:配布資料の範囲を予習する(15分) 事後:授業内容の復習をする(30分)	
4	トレーニングに伴うリスクの理解(井元)	事前:配布資料の範囲を予習する(15分) 事後:授業内容の復習をする(30分)	
5	指導者の役割(井元)	事前:配布資料の範囲を予習する(15分) 事後:授業内容の復習をする(30分)	
6	前回までの理解の確認ウォームアップのための運動メニュー(廣滋)	事前:前回までの内容の要約発表に備える(15分) 事後:授業内容の復習をする(30分)	
7	レジスタンストレーニングの実践(1) 上肢、体幹(廣滋)	事前:配布資料の範囲を予習する(30分) 事後:授業内容の復習をする(15分)	
8	レジスタンストレーニングの実践(2) 下肢、その他(廣滋)	事前:配布資料の範囲を予習する(30分) 事後:授業内容の復習をする(15分)	
9	プライオメトリクスの実践(廣滋)	事前:配布資料の範囲を予習する(30分) 事後:授業内容の復習をする(15分)	
10	柔軟性トレーニング(セルフストレッチング・パートナーストレッチング)(廣滋)	事前:配布資料の範囲を予習する(30分) 事後:授業内容の復習をする(15分)	
11	柔軟性トレーニング(ダイナミックストレッチング)(廣滋)	事前:配布資料の範囲を予習する(30分) 事後:授業内容の復習をする(15分)	
12	バランス能力、姿勢支持能力向上のトレーニング(廣滋)	事前:配布資料の範囲を予習する(30分) 事後:授業内容の復習をする(15分)	
13	トレーニング効果の測定と評価(廣滋)	事前:配布資料の範囲を予習する(30分) 事後:授業内容の復習をする(15分)	

14	トレーニング計画(メニュー)の立案(1)(廣滋・井元)	事前:全授業内容の復習(15分) 事後:課題レポート作成(30分)	
15	トレーニング計画(メニュー)の立案(2) まとめ(廣滋・井元)	事前:全授業内容の復習(30分) 事後:課題レポート作成(45分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
第1～5回では配布資料に沿った予習・復習をしてください。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
受講への取り組み	小テスト	レポート	
10%	10%	80%	
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
参考書又は参考資料等			
1. 『トレーニング指導者テキスト 理論編 改訂版』NPO 法人日本トレーニング指導者協会 編著 大修館書店			
2. 『トレーニング指導者テキスト 実践編 改訂版』NPO 法人日本トレーニング指導者協会 編著 大修館書店※適宜、資料を配布します。			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	神経・筋障害系理学療法Ⅱ		
担当者名	鈴木 雄太	実務家教員	○
授業コード	1210091001	授業形態	演習
学年	3年	開講期	2025年度前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP4-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	神経筋疾患は神経や筋自体の病変によって運動に障害をきたす疾患であり、症状に合わせた適切なアプローチが必要となる。この講義では、主たる神経筋疾患の病態や症状について理解を深め、適切な評価やアプローチが実施できるよう学修していく。また、臨床現場で神経筋疾患患者を対象とした理学療法経験を有する教員が、臨床現場での具体的なアプローチ方法について紹介し、グループワークを通じて実践力を高めていく。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主たる神経筋疾患の病態と症状について理解できる。 2. 主たる神経筋疾患の評価について選択的に行うことができるようになる。 3. 主たる神経筋疾患のアプローチを臨床推論に基づいて行えるようになる。 		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	中枢神経系の構造と機能	事前:受講内容をあらかじめ確認し、理解を深める(15分) 事後:受講内容を整理し、復習ノートを作成する(30分)	
2	中枢神経系のネットワーク	事前:受講内容をあらかじめ確認し、理解を深める(15分) 事後:受講内容を整理し、復習ノートを作成する(30分)	
3	パーキンソン病(1)病態と症状	事前:受講内容をあらかじめ確認し、理解を深める(15分) 事後:受講内容を整理し、復習ノートを作成する(30分)	
4	パーキンソン病(2)評価と理学療法	事前:受講内容をあらかじめ確認し、理解を深める(15分) 事後:受講内容を整理し、復習ノートを作成する(30分)	
5	脊髄小脳変性症(1)病態と症状	事前:受講内容をあらかじめ確認し、理解を深める(15分) 事後:受講内容を整理し、復習ノートを作成する(30分)	
6	脊髄小脳変性症(2)評価と理学療法	事前:受講内容をあらかじめ確認し、理解を深める(15分) 事後:受講内容を整理し、復習ノートを作成する(30分)	
7	筋萎縮性側索硬化症の理学療法	事前:受講内容をあらかじめ確認し、理解を深める(15分) 事後:受講内容を整理し、復習ノートを作成する(30分)	
8	多発性硬化症(1)病態と症状	事前:受講内容をあらかじめ確認し、理解を深める(15分) 事後:受講内容を整理し、復習ノートを作成する(30分)	
9	多発性硬化症(2)評価と理学療法	事前:受講内容をあらかじめ確認し、理解を深める(15分) 事後:受講内容を整理し、復習ノートを作成する(30分)	
10	ギラン・バレー症候群の理学療法	事前:受講内容をあらかじめ確認し、理解を深める(15分) 事後:受講内容を整理し、復習ノートを作成する(30分)	
11	筋ジストロフィー(1)病態と症状	事前:受講内容をあらかじめ確認し、理解を深める(15分) 事後:受講内容を整理し、復習ノートを作成する(30分)	
12	筋ジストロフィー(2)評価と理学療法	事前:受講内容をあらかじめ確認し、理解を深める(15分) 事後:受講内容を整理し、復習ノートを作成する(30分)	
13	その他の神経難病疾患の理学療法	事前:受講内容をあらかじめ確認し、理解を深める(15分) 事後:受講内容を整理し、復習ノートを作成する(30分)	

14	認知症と理学療法	事前:受講内容をあらかじめ確認し、理解を深める(15分) 事後:受講内容を整理し、復習ノートを作成する(30分)	
15	神経筋疾患に対する理学療法のまとめ	事前:受講内容をあらかじめ確認し、理解を深める(15分) 事後:受講内容を整理し、復習ノートを作成する(30分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
事前準備として、神経内科学で学んだ神経筋疾患について復習しておくこと。 授業後は疾患ごとにまとめたノートを作成していくこと。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
定期試験	小テスト・課題		
70%	30%		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学	森岡 周、阿部浩明 編	医学書院	
参考書又は参考資料等			
病気がみえる vol.7 脳・神経(MEDIC MEDIA)他は必要に応じて、適宜配布します。			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	骨・関節障害系理学療法Ⅱ		
担当者名	時任 真幸	実務家教員	
授業コード	1210090001	授業形態	演習
学年	3年	開講期	2025年度前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP4-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	骨・関節疾患は介護が必要になる大きな要因としてあげられ、理学療法士としての重要性が高い。本講義では、代表的な骨・関節疾患に対しての評価と運動療法を中心に学習する。授業の進め方としては、講義に加えてグループディスカッションと発表を実施する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1.骨・関節疾患に対する基本的なエビデンスを理解できる。 2.骨・関節疾患に対して理学療法評価を選択し説明できる。 3.骨・関節疾患に対して理学療法評価から得られた情報を統合と解釈できる。 4.骨・関節疾患に対して理学療法評価から得られた情報を統合と解釈し、運動療法が立案できる。		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション 骨関節疾患総論	事前:シラバス通読および指定教科書1の第1章を復習しておくこと。(30分) 事後:授業を振り返り、レポートを作成する。(15分)	
2	骨・関節疾患の触診評価	事前:指定教科書2の第27章肩関節、第30章頸椎、第32章胸椎・腰椎、第33章股関節、第34章膝関節の図を確認する。(30分) 事後:授業を振り返り、実技練習を行う。(15分)	
3	脊椎疾患に対する評価・運動療法	事前:指定教科書1、p158 予習課題を実施する。(15分)事後:授業を振り返り、指定教科書1、アクティブラーニング2を作成する。(30分)	
4	演習(脊椎疾患に対する評価)	事前:指定教科書1、p159～172、178～179を通読しておくこと。(15分) 事後:授業を振り返り、指定教科書1、アクティブラーニング3を作成する。(30分)	
5	演習(脊椎疾患に対する運動療法)	事前:指定教科書1、p172～176を通読しておくこと。(15分) 事後:授業を振り返り、指定教科書1、アクティブラーニング4を作成する。(30分)	
6	肩関節疾患に対する評価・運動療法	事前:指定教科書1、p133 予習課題を実施する。(15分)事後:授業を振り返り、指定教科書1、アクティブラーニング2を作成する。(30分)	
7	演習(肩関節疾患に対する評価)	事前:指定教科書1、p134～145、149～150を通読しておくこと。(15分) 事後:授業を振り返り、指定教科書1、アクティブラーニング3を作成する。(30分)	
8	演習(肩関節疾患に対する運動療法)	事前:指定教科書1、p146～147を通読しておくこと。(15分) 事後:授業を振り返り、指定教科書1、アクティブラーニング4を作成する。(30分)	

9	股関節疾患に対する評価・運動療法	事前:指定教科書 1、p81 予習課題を実施する。(15 分) 事後:授業を振り返り、指定教科書 1、アクティブラーニング 2 を作成する。(30 分)
10	演習(股関節疾患に対する評価)	事前:指定教科書 1、p82～93、101～103 を通読しておくこと。(15 分) 事後:授業を振り返り、指定教科書 1、アクティブラーニング 3 を作成する。(30 分)
11	演習(股関節疾患に対する運動療法)	事前:指定教科書 1、p94～99 を通読しておくこと。(15 分) 事後:授業を振り返り、指定教科書 1、アクティブラーニング 4 を作成する。(30 分)
12	膝関節疾患に対する評価・運動療法	事前:指定教科書 1、p109 予習課題を実施する。(15 分) 事後:授業を振り返り、指定教科書 1、アクティブラーニング 2 を作成する。(30 分)
13	演習(膝関節疾患に対する評価)	事前:指定教科書 1、p110～119、124～125 を通読しておくこと。(15 分) 事後:授業を振り返り、指定教科書 1、アクティブラーニング 3 を作成する。(30 分)
14	演習(膝関節疾患に対する運動療法)	事前:指定教科書 1、p119～122 を通読しておくこと。(15 分) 事後:授業を振り返り、指定教科書 1、アクティブラーニング 4 を作成する。(30 分)
15	骨関節疾患に対すると統合と解釈	事前:対象4疾患における総復習を実施する。(30 分) 事後:授業を振り返り、まとめレジュメを作成する。(15 分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

本講義では、2 年生で学習した骨・関節疾患理学療法 I・解剖学・運動学を予習してくることを前提に講義を進めていく。事前学習としては、シラバスの該当箇所に必要な解剖学や運動学や整形外科の知識を確認しておくこと。事後学習では授業内容の再確認し気付きリスト(授業内容をまとめる書式、まとめ方は授業内に詳細に指示する)の作成を行うこと。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

小テスト	レポート	定期テスト	
20%	20%	60%	

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
理学療法アクティブ・ラーニング・テキスト骨関節障害理学療法学	対馬栄輝, 有馬慶美編	文光堂
標準整形外科学	井樋栄二 [ほか] 編集	医学書院

参考書又は参考資料等

基礎運動学, 中村隆一, 齋藤宏, 長崎浩著, 医歯薬出版運動療法学 : 障害別アプローチの理論と実際, 市橋則明編集, 文光堂必要に合わせて、追加プリントにて補足する。

その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕

担当教員の連絡先等

教員 E-mail	その他
	オフィスアワー以外でも研究室に在室の際は対応可。

授業科目名	理学療法研究法演習 I		
担当者名	井元 淳、高橋 精一郎、廣滋 恵一、奥田 憲一、松崎 英章	実務家教員	
授業コード	1210074001	授業形態	演習
学年	3年	開講期	2025年度前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP5-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	臨床では科学的根拠に基づいた理学療法の提供が求められている。そこで研究活動に必要な用語・考え方、研究プランの立て方、研究の進め方、正しいデータ収集法、倫理規定、適切な統計法の採用などの理解が必要となる。この科目では臨床での研究経験を有する教員が、将来、研究を円滑に進めて行く上で必要な基本的内容を講義により解説するとともに、研究グループに分かれての研究計画書の立案、また実際の機器を使用したデータの収集や統計学的結果を検討して報告書を作成する演習を行う。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1.研究プランの立て方、データ収集の方法、論文検索、倫理規定等について説明できるようになる 2.研究計画書を作成するための資料を集め、計画書の立案を討議できるようになる 3.データ処理のための統計法を修得する 4.統計学的結果について分析、評価し、効果的な研究結果を提示する方法を修得する		
授業計画		準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間	
1	研究方法論①:研究とは何か、研究の進め方と文献検索の方法(井元)	事前:興味あることについてまとめる(15分) 事後:配布資料を復習する(30分)	
2	研究方法論②:研究課題の見つけ方(井元)	事前:興味あることについてまとめる(15分) 事後:配布資料を復習する(30分)	
3	研究方法論③:研究計画書の作成方法、倫理規定(井元)	事前:興味あることについてまとめる(15分) 事後:配布資料を復習する(30分)	
4	研究方法論④:統計手法、研究結果の公表方法(井元)	事前:興味あることについてまとめる(15分) 事後:グループで研究テーマを抽出する(30分)	
5	グループ別 研究計画書作成①(教員別)	事前:興味あることについてまとめる(15分) 事後:グループで研究テーマを抽出する(30分)	
6	グループ別 研究計画書作成②(教員別)	事後:研究計画書を修正する(45分)	
7	グループ別 研究計画書作成③(教員別)	事後:研究計画書を修正する(45分)	
8	グループ別 データ収集①(教員別)	事前:研究方法を確認する(15分) 事後:収集したデータをまとめる(30分)	
9	グループ別 データ収集②(教員別)	事前:研究方法を確認する(15分) 事後:収集したデータをまとめる(30分)	
10	グループ別 データ収集③(教員別)	事前:研究方法を確認する(15分) 事後:収集したデータをまとめる(30分)	
11	グループ別 統計学的分析①(教員別)	事前:統計手法を確認する(15分) 事後:統計結果を分析する(30分)	
12	グループ別 統計学的分析②(教員別)	事前:統計手法を確認する(15分) 事後:統計結果を分析する(30分)	
13	研究データのまとめ方:図表の作成方法(井元)	事前:図表の作成方法を復習する(15分) 事後:図表を作成する(30分)	

14	グループ別 図表の作成・提出①(教員別)	事前:図表の提出資料の体裁を確認する(15分) 事後:結果報告書を作成する(30分)	
15	グループ別 図表の作成・提出②(教員別)	事後:結果報告書を修正する(45分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
研究計画書と結果報告書は配布資料や提示する記載例をもとにグループで作成すること。どちらも提出を求めます。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
研究計画書	結果報告書	授業への取り組み	
60%	30%	10%	
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
参考書又は参考資料等			
はじめての研究法(千住秀明ら、神陵文庫)ここからはじめる研究入門(武田裕子訳、医学書院)医学的研究のデザイン 第4版(木原雅子ら訳、メディカルサイエンス・インターナショナル)			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	生活環境支援論		
担当者名	吉田 遊子、松崎 英章	実務家教員	
授業コード	1210102001	授業形態	講義
学年	3年	開講期	2025年度前期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP4-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	高齢者や障害者もそうでない人と同様に様々な生活環境(人的・物的・社会的)のもとでその人らしく生活を営む権利を持っている。そのような社会がごく普通の社会であり、このような考え方がノーマライゼーションとしての理念であり、リハビリテーション医療の原点となっている。本授業では、実務経験のある教員が、高齢者や障害者へ様々な生活環境としての支援の在り方、理学療法士としての係わり方、そのために必要となる基本的な知識と技術を教授する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1.生活環境支援の対象者となる高齢者、障害者の社会状況や住環境、生活機能障害を理解できる。 2.社会的な生活環境支援としての法制度、介護保険制度・障害者総合支援法・他について理解できる。 3.福祉住環境整備を進める上で必要となる基本的技術や実践に伴う基礎知識を理解できる。 4.在宅生活における福祉用具の意義と活用について実践できる。 		
授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間	
1	オリエンテーション、生活環境学の考え方、日本における生活環境の特徴と課題(p1-20)(吉田)	事前:授業予定の箇所を一読のこと(90分)事後:授業を振り返り、関連する文献・資料を調べる(90分)	
2	生活環境整備に関する法的制度(p21-38)(吉田)	事前:授業予定の箇所を一読のこと(90分)事後:授業を振り返り、関連する文献・資料を調べる(90分)	
3	生活環境整備の進め方(p39-52)(松崎)	事前:授業予定の箇所を一読のこと(90分)事後:授業を振り返り、関連する文献・資料を調べる(90分)	
4	居宅支援の実際(松崎)	事前:授業の該当箇所を一読のこと(90分) 事後:「講義を受講しての感想」を400字程度にまとめ、提出のこと(90分)	
5	生活環境整備の基本:段差・スペース・床材・手すり、建具(p53-75)(吉田)	事前:自宅内の段差の高さ、手すりの有無、建具の種類を調べる(90分) 事後:授業を振り返り、国家試験過去問題を行うこと(90分)	
6	玄関・アプローチ・廊下・階段の環境整備(p77-94)(吉田)	事前:自宅玄関から道路までの状況、玄関上がり框の高さを調べる(90分) 事後:授業を振り返り、国家試験過去問題を行うこと(90分)	
7	トイレ・浴室・脱衣所・台所・食堂の環境整備(p96-125)(吉田)	事前:自宅トイレ・風呂の状況(広さ・高さ・深さ・手すりの有無)、脱衣所から浴室の段差を調べる(90分)事後:授業を振り返り、国家試験過去問題を行うこと(90分)	
8	浴室の環境整備、自動車の乗降などに関する演習(吉田・松崎)	事前:5~7回目の授業の振り返り(90分) 事後:課題の実施(90分)	
9	疾患別環境整備①:脳血管障害・パーキンソン病(p137-150)(松崎)	事前:授業予定の箇所を一読のこと(90分) 事後:授業を振り返り、関連する文献・資料を調べる(90分)	
10	疾患別環境整備②:脊髄損傷・骨関節疾患(p150-162)(松崎)	事前:授業予定の箇所を一読のこと(90分)事後:授業を振り返り、関連する文献・資料を調べる(90分)	

11	疾患別環境整備③:ALS・認知症・視覚障害・聴覚障害・他(吉田)	事前:ALS・認知症・視覚障害・聴覚障害の病態について復習する(90分) 事後:授業内容を振り返り、その他の支援機器についてインターネットで調べる(90分)
12	福祉用具プラザ北九州の見学(吉田・松崎)	事前:これまでの授業で紹介した福祉用具等を実際に確認してもらいます。該当する授業内容を再確認しておくこと(90分) 事後:見学内容・感想を400字程度にまとめ、提出のこと(90分)
13	事例検討:グループワークオリエンテーション、基本的な建築図面の読み方・書き方(p163-174)(吉田・松崎)	事前:1~12回目の授業の振り返り(90分) 事後:事例の内容を確認し、問題点を検討する(90分)
14	事例検討:グループワーク(吉田・松崎)	事前:事例の内容を確認し、問題点を検討する(90分) 事後:グループでの検討内容を資料にまとめる(90分)
15	事例検討:発表および意見交換(吉田・松崎)	事前:発表準備(90分) 事後:他のグループの意見もあわせ、振り返りをする(90分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
準備学習として授業テーマに該当する教科書部分を一読しておくこと。 自宅内外の生活環境について、観察してみよう。事後学習については配布された資料等を再確認すること。		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)		
レポート課題(2回)	事例検討の内容とグループ活動への参加態度	定期試験
15%	10%	75%
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
シンプル理学療法学作業療学生活環境学 テキスト 改訂第2版	細田多穂 監修	南江堂
参考書又は参考資料等		
福祉住環境コーディネーター検定試験改訂6版、東京商工会議所編標準理学療法学専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第5版、著者:橋元 隆、吉田遊子 出版社:医学書院		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	

授業科目名	理学療法評価学統合演習		
担当者名	吉田 遊子、神崎 良子、松崎 英章、鈴木 雄太	実務家教員	○
授業コード	1210079001	授業形態	演習
学年	3年	開講期	2025年度前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必須
ナンバリング	DP3-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	臨床では「疾患や障害」を有する「人」について多面的評価を行わなければ真に必要な理学療法は行えない。つまり、疾患の特性や障害の重症度に加え、社会的背景や個人的課題を抱えた人を理解しようとする視点が必要である。授業では、理学療法に必要な評価項目を挙げ、患者個々の状況に合わせた理学療法プログラムを考える。具体的には、モデル症例の評価結果を統合・解釈し、理学療法プログラム立案・修正へと繋がる関連を理解するための演習を行う。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患の病態や障害像が理解できる。 2. 評価結果や情報から症例の全体像や問題点を考察できる。 3. 目標設定や理学療法プログラムの立案を考察できる。 4. 適切に記録ができる。 		
授業計画		準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間	
1	オリエンテーション(ポートフォリオの形式、レジュメフォーム・ルーブリック提示含む)、評価の意義と目的、評価の流れ、模擬症例の提示(鈴木・他担当教員)	事後:課題①(模擬症例に関する病態理解、評価項目の列挙)の実施・提出(45分)	
2	記録、SOAPについて(松崎・他担当教員)	事後:課題の実施(45分)	
3	初回問診、評価項目の整理(鈴木・他担当教員)	事前:模擬症例の病態について確認する(20分) 事後:問題点と評価項目の関連性を整理する(25分)	
4	理学療法初期評価(環境因子・個人因子・心身機能・身体構造)の確認(吉田・他担当教員)	事前:BRS、筋緊張検査、ROM-Tの検査の意義と方法を確認する(20分) 事後:課題②(アセスメント)の実施・提出(25分)	
5	理学療法初期評価(心身機能・身体構造)の演習(吉田・他担当教員)	事前:BRS、筋緊張検査、ROM-Tの検査方法を確認する(20分) 事後:検査方法の練習(25分)	
6	理学療法初期評価(心身機能・身体構造・活動)の確認(吉田・他担当教員)	事前:反射検査、感覚検査、バランス検査の意義と方法を確認する(20分) 事後:課題③(アセスメント)の実施・提出(25分)	
7	理学療法初期評価(心身機能・身体構造・活動)の演習(吉田・他担当教員)	事前:反射検査、感覚検査、バランス検査の検査方法を確認する(20分) 事後:検査方法の練習(25分)	
8	理学療法初期評価(活動)の確認(吉田・他担当教員)	事前:ADL評価、歩行分析の意義と方法を確認する(20分) 事後:課題④(アセスメント)の実施・提出(25分)	
9	理学療法初期評価(活動)の実技演習(吉田・他担当教員)	事前:ADL評価、歩行分析の方法を確認する(20分) 事後:課題の実施(25分)	
10	結果のまとめ、統合と解釈、問題点抽出(神崎・他担当教員)	事後:課題の実施(45分)	

11	レジュメ作成、目標設定、理学療法プログラム立案 (神崎・他担当教員)	事後:課題の実施(45分)
12	症例報告①(前半グループ)(担当教員)	事前:症例報告の準備(45分)
13	症例報告②(後半グループ)(担当教員)	事後:他者の報告から得られた情報を整理する(45分)
14	理学療法の効果判定(鈴木・他担当教員)	事前:症例報告を振り返りプログラムの見直しを行う(20分) 事後:自身で立案したプログラムの効果判定を行う(25分)
15	理学療法の考察(鈴木・他担当教員)	事前:考察のための文献検索を行う(25分) 事後:講義内容を振り返り、情報を整理する(20分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

事前学習は配布資料の確認をして、授業のテーマを予め理解しておいてください。事後学習は、ポートフォリオを作成して授業の振り返りと情報の整理を行ってください。ポートフォリオは2・4・6・9・15回目の授業後に提出してもらいます。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

ポートフォリオ	課題①～④の内容	レジュメ	プレゼンテーション
30%	20%(5%×4)	30%	20%

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
理学療法学テキストⅡ 理学療法評価法第3版	(監修)千住秀明	神陵文庫
リハビリテーション基礎評価学 第2版	(編集)潮見泰藏	羊土社

参考書又は参考資料等

生活機能障害別・ケースで学ぶ理学療法臨床思考 (文光堂)

その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕

担当教員の連絡先等

教員 E-mail	その他

授業科目名	内部障害系理学療法Ⅱ		
担当者名	神崎 良子	実務家教員	
授業コード	1210092001	授業形態	演習
学年	3年	開講期	2025年度前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP4-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	この授業では、心臓リハビリテーションの実務経験を有する教員が、本邦における死因の第2位である循環器疾患を中心に、疾患の特性や治療法、理学療法評価、プログラムなどを疾患別に解説する。疾患の理解を深めるため模擬症例を提示し、問題点やプログラム立案をグループワーク形式で行う。また循環器疾患と関連の深い糖尿病の理学療法や慢性腎臓病についても解説する。近年各種ガイドラインで理学療法の効果が明らかとなってきたがん患者への理学療法やフレイルについても説明する。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法の対象となる代表的な循環器疾患の病態を説明できる。 2. 循環器疾患の基本的な理学療法とリスク管理について説明できる。 3. 代謝性疾患の理学療法の目的と効果、禁忌事項について説明できる。 4. がんのリハビリテーションにおける理学療法士の役割について説明できる。 		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	循環器の構造と機能(p11-20)虚血性心疾患の病態(p21-37)	事前:教科書 p457 症例2の情報について予習(45分)	
2	虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)に対する理学療法(p65-92)	事前:授業の予習(30分) 事後:ワークシート(15分)	
3	心不全の病態と理学療法評価(p25-37)	事前:教科書 p457 症例1の情報について予習(45分)	
4	心不全に対する理学療法(p93-106)	事前:授業の予習(30分)事後:ワークシート(15分)	
5	末梢血管疾患、大血管疾患の病態と理学療法(p119-147、149-152)	事前:授業の予習(30分) 事後:ワークシート(15分)	
6	循環器疾患に対する理学療法	事前:バイタルサインの測定(実技練習)(30分) 事後:ワークシート(15分)	
7	腎臓の構造と機能、慢性腎臓病の病態と理学療法(p165-178)	事前:授業の予習(30分) 事後:ワークシート(15分)	
8	心臓・腎臓リハビリテーション(p39-63)	事前:授業の予習(45分)	
9	代謝性疾患(糖尿病)の病態と評価(p335-374)	事前:教科書 p467 症例7の情報について予習(45分)	
10	糖尿病に対する理学療法(p375-406, 439-454)	事前:授業の予習(30分)事後:ワークシート(15分)	
11	がんの病態と評価(p407-437)	事前:教科書 p469 症例8の情報について予習(45分)	
12	がんリハビリテーション(p153-163, 407-437)	事前:授業の予習(30分)事後:ワークシート(15分)	
13	疾病予防と重症化予防	事後:配布資料の事前学習(45分)	
14	ウィメンズヘルス・メンズヘルスとリハビリテーション	事前:配布資料の事前学習(45分)	
15	妊産婦、排尿障害に対する理学療法	事前:骨盤と骨盤内臓器の解剖学的構造の確認(30分) 事後:ワークシート(15分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
生理学、内科学および理学療法評価学統合演習Ⅰは関連する科目である。これらの授業資料を積極的に活用し復習することが望ましい。			

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
筆記試験	ワークシート		
70%	30%		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト	細田多穂監修	南江堂	
参考書又は参考資料等			
「病気がみえる Vol.2 循環器疾患、Vol.3 糖尿病・代謝・内分泌」(メディックメディア社)「腎臓リハビリテーション」(医歯薬出版株式会社)／「がん患者のリハビリテーション」(メジカルビュー社)「ウイメンズヘルスリハビリテーション」(メジカルビュー社)「15 レクチャーシリーズ 内部障害理学療法学 循環・代謝」(中山書店)「循環器病ガイドラインシリーズ」 https://www.j-circ.or.jp/guideline/guideline-series/ (日本循環器学会)			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	神経障害系運動療法Ⅱ		
担当者名	橋元 隆	実務家教員	
授業コード	1210059001	授業形態	演習
学年	3年	開講期	2025年度前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP3-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	神経障害系運動療法Ⅰから繋がる科目である。基本的動作を発達段階(臥位～立位)に沿って動作分析しながら、片麻痺・パーキンソン病など神経障害に則した動作指導(座位～立位)を学習する。神経障害疾患に対する残存機能を統合し、各動作の実行が可能になるように指導するもので、自立(介助方法を含む)にむけての指導方法を教授する。特に起居・移動動作の基盤となるものである。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	○座位, さらに床上での立ちしゃがみにいたる各段階の動作分析が可能になること。 ○演習を中心とした授業形態で, 各動作の基本的介入・指導方法を習得し, 対象者はもとより介助者などへの指導が可能になること。		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	座位バランスの指導(片麻痺・四肢麻痺例)	事前:配布資料の予習・Br.S.ASIA 分類の確認(15分) 事後:演習項目の復習と教科ノートの作成(30分)	
2	座位移動の指導(片麻痺・四肢麻痺例)	事前:配布資料の予習・Br.S.ASIA 分類の確認(15分) 事後:演習項目の復習と教科ノートの作成(30分)	
3	座位～四つ這い位の動作分析	事前:配布資料の予習(15分) 事後:演習項目の復習と教科ノートの作成(30分)	
4	四つ這い位バランスと四つ這い移動の指導	事前:配布資料の予習(15分) 事後:演習項目の復習と教科ノートの作成(30分)	
5	四つ這い位～膝立ち位への動作分析	事前:配布資料の予習・片麻痺の Br.S.の確認(15分) 事後:演習項目の復習と教科ノートの作成(30分)	
6	四つ這い位～膝立ち位への指導	事前:配布資料の予習(15分) 事後:演習項目の復習と教科ノートの作成(30分)	
7	片膝立ち位～立位への動作分析	事前:配布資料の予習・片麻痺の Br.S.の確認(15分) 事後:演習項目の復習と教科ノートの作成(30分)	
8	片膝立ち位～立位への指導	事前:配布資料の予習(15分) 事後:演習項目の復習と教科ノートの作成(30分)	
9	四つ這い位～高這い位～立位への動作分析	事前:配布資料の予習・片麻痺の Br.S.の確認(15分) 事後:演習項目の復習と教科ノートの作成(30分)	
10	四つ這い位～高這い位～立位への指導	事前:配布資料の予習(15分) 事後:演習項目の復習と教科ノートの作成(30分)	
11	端座位姿勢とバランス分析	事前:配布資料の予習(15分) 事後:演習項目の復習と教科ノートの作成(30分)	
12	端座位からの立ち・しゃがみの動作分析と指導	事前:配布資料の予習(15分) 事後:演習項目の復習と教科ノートの作成(30分)	
13	床からの立ち・しゃがみの動作分析	事前:配布資料の予習・片麻痺の Br.S.の確認(15分) 事後:演習項目の復習と教科ノートの作成(30分)	

授業科目名	中枢神経障害系理学療法Ⅱ		
担当者名	高橋 精一郎	実務家教員	
授業コード	1210089001	授業形態	演習
学年	3年	開講期	2025年度前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP4-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	ヒトの動きは関節の形態や関節を動かす筋の走行によって方向が決められており、日常生活やスポーツにおける動きにおいては運動パターンとして観察できる。これらの動きは関節構造上の不都合がなく、動きに関与する筋が効率よく活動できる組み合わせとなっている。これらパターンは神経・筋促通手技として臨床での運動再獲得の方法となっている。本科目は演習科目のため、各種パターンを理解し、臨床応用ができるように誘発する方法を修得する。また、日常生活活動に影響を及ぼす高次脳機能についても修得する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒトの各関節の形態や構造を説明できる。 2. 関節の運動方向と主動作筋の組み合わせを説明できる。 3. 各種パターンの誘発ができる。 4. 高次脳機能の分類と障がい症状の説明ができる。 		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	1. 神経生理学的アプローチの歴史と定義 2. 神経筋促通手技(PNF)の理論と臨床適用の判断考察	事前:授業内容の確認と予習(15分) 事後:神経生理学的アプローチ、PNFの理論の理解と臨床適用の確認(30分)	
2	上肢パターン1の運動分析と誘発方法の理論と演習	事前:前回の授業内容の復習(15分) 事後:上肢パターン1の運動分析と誘発方法の確認(30分)	
3	上肢パターン2の運動分析と誘発方法の理論と演習	事前:前回の授業内容の復習(15分) 事後:上肢パターン2の運動分析と誘発方法の確認(30分)	
4	上肢パターン3の運動分析と誘発方法の理論と演習	事前:前回の授業内容の復習(15分) 事後:上肢パターン3の運動分析と誘発方法の確認(30分)	
5	上肢パターン4の運動分析と誘発方法の理論と演習	事前:前回の授業内容の復習(15分) 事後:上肢パターン4の運動分析と誘発方法の確認(30分)	
6	下肢パターン1の運動分析と誘発方法の理論と演習	事前:前回の授業内容の復習(15分) 事後:下肢パターン1の運動分析と誘発方法の確認(30分)	
7	下肢パターン2の運動分析と誘発方法の理論と演習	事前:前回の授業内容の復習(15分) 事後:下肢パターン2の運動分析と誘発方法の確認(30分)	
8	下肢パターン3の運動分析と誘発方法の理論と演習	事前:前回の授業内容の復習(15分) 事後:下肢パターン3の運動分析と誘発方法の確認(30分)	
9	下肢パターン4の運動分析と誘発方法の理論と演習	事前:前回の授業内容の復習(15分) 事後:下肢パターン4の運動分析と誘発方法の確認(30分)	
10	下肢パターン5の運動分析と誘発方法の理論と演習	事前:前回の授業内容の復習(15分) 事後:下肢パターン5の運動分析と誘発方法の確認(30分)	
11	下肢パターン6の運動分析と誘発方法の理論と演習	事前:前回の授業内容の復習(15分) 事後:下肢パターン6の運動分析と誘発方法の確認(30分)	
12	1. 高次脳機能とは 2. 高次脳機能障がい呈する疾患と症状、臨床的課題	事前:脳の機能の確認(15分) 事後:高次脳機能障がいの症状と問題点の確認(30分)	

13	1. 失行の症状と生活上の問題点2. 臨床的アプローチ	事前:前回の授業内容の復習(15分) 事後:失行の症状と問題点、臨床的アプローチの確認(30分)
14	1. 失認の症状と生活上の問題点2. 臨床的アプローチ	事前:前回の授業内容の復習(15分) 事後:失認の症状と問題点、臨床的アプローチの確認(30分)
15	高次脳機能の問題抽出と臨床的アプローチの考察(患者DVDから)	事前:前回の授業内容の復習(15分) 事後:DVDから得た情報のまとめと確認(30分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
<p>1. 各関節の動きに関する主動作筋・拮抗筋の確認をしておくこと。</p> <p>2. 筋の支配神経名・支配髄節の確認をしておくこと。</p> <p>3. 脳の機能の局在について復習しておくこと。</p>		
成績評価の方法[評価項目と割合]※上段:評価項目、下段:割合(%)		
期末筆記試験	実技試験	ノート10%
70%	20%	10%
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
随時資料を配布する		
参考書又は参考資料等		
その他[受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて]		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	